

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-044305

(43)Date of publication of application : 12.03.1984

(51)Int.Cl.

A61K 7/032

(21)Application number : 57-155387

(71)Applicant : MIYAZAKI KOGYO KK

(22)Date of filing : 07.09.1982

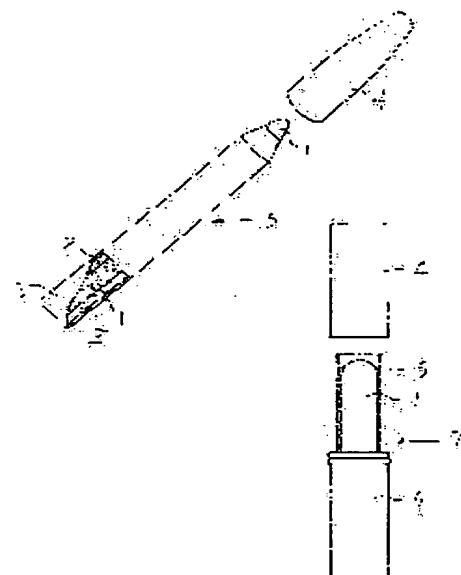
(72)Inventor : MIYAZAKI YOSHINOBU

(54) POWDER STICK FOR EYE SHADOW

(57)Abstract:

PURPOSE: To prepare a powder stick for eye shadow, handy to carry, giving comfortable feeling to the skin, and forming eye shadow smoothly, by adding a specific amount of water containing a water-soluble binder such as CMC to a pigment, kneading and forming the mixture, and evaporating the water from the stick.

CONSTITUTION: A powder stick 1 for eye shadow is prepared by adding 40W20% of water containing a water-soluble binder such as CMC (carboxymethylcellulose) to 60W80% of a pigment, kneading and forming the mixture, and evaporating the water therefrom. The stick is composed mostly of powder having fine particle size and is hardened with an extremely small amount of the water-soluble binder. Accordingly, it has smooth feeling to the skin, and adheres firmly to the skin. For the practical use, the stick is sold in the form of pencil 5 wherein the stick is inserted between a pair of long plates 2, 2' of in the protrusible form inserted in a protruding tube 6, and it is handy to carry and can be applied easily and quickly to the eye.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—44305

⑬ Int. Cl.³
A 61 K 7/032

識別記号

庁内整理番号
7306—4 C

⑭ 公開 昭和59年(1984)3月12日

発明の数 1
審査請求 有

(全 3 頁)

⑮ アイシャドウ用パウダースティック

東京都足立区西新井 6 の 14 の 4

⑯ 特 願 昭57—155387

⑰ 出 願 人 宮崎興業株式会社

⑱ 出 願 昭57(1982)9月7日

東京都足立区西新井 6 の 14 の 4

⑲ 発 明 者 宮崎吉信

⑳ 代 理 人 弁理士 永島郁二

明 細 書

発明の名称 アイシャドウ用パウダースティック

特許請求の範囲

顔料を 6 割乃至 8 割とし、これに O M C 等の水溶性結合剤混入の水分を 4 割乃至 2 割の割合にて加えた湿練成形過程と、水分の発散過程とをもつて、アイシャドウ用のパウダースティックとすることを特徴とするアイシャドウ用パウダースティック。

発明の詳細な説明

この発明はアイシャドウ用のスティックに関するもので、その目的とするところは、パウダー（粉性）アイシャドウ化粧料をペンシル形

、繰出し形において提供することにある。

従来、顔料（着色顔料プラス無着色顔料）を多割合とするパウダー性のアイシャドウ化粧料は平面的な広がりを持つたケース内に敷き詰め収容して提供して来たので、かさばつて携帯に不便であり、その使用も刷毛を用いるため、面倒であるという欠点があつた。

そこで、パウダー性の化粧料を石膏を用いて固めてスティック状とする提案があるも、石膏は極度に硬化するため、使用に際して肌ざわりを悪くし、時には肌に傷をつけることがある。

本発明はこれらの欠点を解決すると共に、滑らかにアイシャドウ化粧ができるようにしたので、これを実施例について詳細説明すると、

80メッシュの着色顔料10%と同メッシュの無着色顔料60%に、水溶性結合剤として、CMC(カルボキシメチルセルローズ)2.0%を注入し、攪拌したイオン除去の精製水30%を加えた練り合わせ且つ成形過程を経て所定径の練成スティックとし、該練成スティックを自然乾燥過程を経て水分を発散させて、アイシャドウ用のパウダースティック1とするのである。

かようにして得られるアイシャドウ用のパウダースティック1は結局98%が粒度の極めて細かい粉質であり、しかも水溶性の結合剤の極く僅かな混入にて固められているので、先づ滑らかであり、従つて石膏による固めに見られたような肌ざわりのザラつきは全く解消して、肌ざ

きるものとなる効果がある。

図面の簡単な説明

第1図はペンシル形とした例の斜視図、第2図は繰出し形とした例の一部断面した正面図、1は粉性スティック、2, 2'は貼合わせ軸木、3は有底筒、4はキャップ、5はペンシル形、6は繰出し筒、7は繰出し形を示す。

特許出願人 宮崎興業株式会社

代理人 弁理士 永 島 郁 二

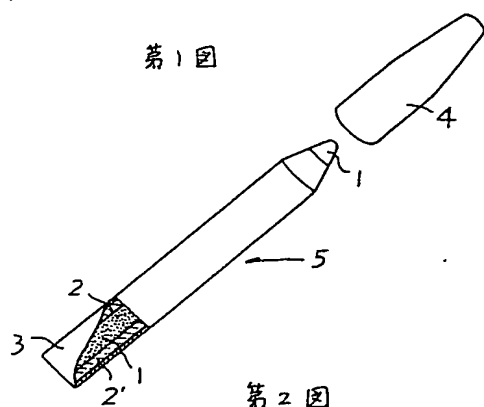


わり滑らかにしてよく肌に附着するものとなる。

このパウダースティック1は着色顔料を他の色彩顔料に置きかえることによつて、各色において提供することができ、実際には貼合わせ軸木2, 2'間に挟挿してペンシル形5として、或は繰出し筒6内に挿立て、繰出し形7として市販される。

このようにして粉性のアイシャドウ用化粧料をパウダースティックとしてペンシル形、繰出し形において提供するので、各色を携帯するとしても平面的な広がりケースより著しく便利となり、直接パウダースティック1の先端を肌に接せしめて化粧をすることができるので、化粧上の面倒さがなくなり、また素早く化粧がで

第 1 図



第 2 図

